

令和5年度 情報教育夏季研修



講座① みんなで実践！ ～リモート授業・Teams会議～

大分市教育センター
情報教育担当班

大分県公立学校教員育成指標(教諭等)

キャリアステージ		第0ステージ 養成期		第1ステージ 基礎形成期		第2ステージ 発展期		第3ステージ 充実深化・円熟期			
		教育に対する知見を深め、求められる資質能力の基盤を形成する		採用から早い時期に、教員としての幅広い視野と能力の伸長を図る		基礎形成期の多様な経験をもとに、中堅教員として各種の分掌主任等を経験することなどで一層の能力伸長を図る		発展期での経験をもとに、管理分野や教科指導等の専門分野の複線化も視野に入れ、より一層の能力伸長を図る ・学校経営ビジョンを理解し、職責、経験に応じたリーダーシップの向上を図る			
教職としての素養	社会人に求められる基礎的な能力	倫理観・法令遵守	高い倫理観を有するとともに、法令を遵守することの重要性を理解している。	高い倫理観に基づき、法令を遵守した教育活動の展開ができる。	高い倫理観をもって、法令を遵守した教育活動を展開することについて、同僚に指導助言ができる。	コミュニケーション能力	状況に応じて、相手が理解できるように自分の考えを伝えたり、相手の話を丁寧に聴くことができる。	関係者との連絡調整を適切に行い、職務を円滑に遂行できる。	組織の目的や自分の意思が相手に充分伝わるよう説明ができるとともに、関係者の協力が得られるよう相手の意見を踏まえながら調整ができる。		
	教育公務員の使命と責任	使命感と熱意	教育公務員の崇高な使命を理解するとともに、自ら学び続ける意欲及び研究能力を有している。	教育公務員としての自覚を持ち、組織の一員としての行動ができるとともに、専門性を高めるために自ら学び続けることができる。	教育公務員としての自覚を深めるとともに、自ら学び続け、分掌主任、学年主任等として、同僚に助言ができる。	教育公務員としての自覚を深めるとともに、自ら学び続け、学校マネジメントの中核を担う教員として、同僚に指導助言ができる。					
	学習指導と評価の力	授業構想力	学習指導要領を理解するとともに、育成を目指す資質能力を明確にした授業のイメージをもつことができる。	学習指導要領に基づき、育成を目指す資質能力を明確にした授業の指導計画を適切に実施することができる。	学習指導要領及び自校の指導方針に基づき、育成を目指す資質能力を明確にした授業の指導計画を適切に実施できる。	学習指導要領及び自校の指導方針に基づき、育成を目指す資質能力を明確にした授業の指導計画を立案し、同僚に指導助言ができる。	授業展開力	授業展開に必要な基礎的なスキルを獲得している。	基礎的なスキルを生かした授業展開ができる。	児童生徒の実態に即した授業展開ができる。	児童生徒の実態に即した授業展開について、同僚に指導助言ができる。
児童生徒指導と集団づくりの力	授業評価と改善	学習評価の意義と方法について理解している。	児童生徒一人一人の学習状況の把握と個に応じた適切な指導ができる。	適切な授業評価に基づく授業改善ができる。	適切な授業評価に基づく授業改善について、同僚に指導助言ができる。	児童生徒理解	児童生徒理解の意義と重要性を理解している。	学級の児童生徒を取り巻く環境や多様な個性を理解し、児童生徒一人一人に向き合うことができる。	学年の児童生徒を取り巻く環境や多様な個性を理解し、児童生徒一人一人に向き合うことができる。	学校の児童生徒を取り巻く環境や多様な個性の理解について、同僚に指導助言ができる。	
	児童生徒指導	個や集団を指導するスキルを理解している。	保護者や校内組織と連携して、個に応じた指導ができる。	関係機関等と連携した学年全体の指導ができる。	関係機関等と連携した学校全体の指導について、同僚に指導助言ができる。	特別支援教育の実践	特別支援教育に関する理念や指導・支援方法等について理解している。	特別な配慮や支援が必要な児童生徒の教育的ニーズを把握できるとともに、保護者や校内組織と連携し、個に応じた適切な指導・支援ができる。	特別な配慮や支援が必要な児童生徒の教育的ニーズを把握できるとともに、具体的な指導・支援方法等について、同僚に指導助言ができる。		
教職の実践	ICTや情報・教育データの活用	ICTや情報・教育データを活用した教育の実践	ICT及び情報・教育データの活用に関する目的的理解や、知識・技術を獲得している。	ICTや情報・教育データを活用した授業及び児童生徒指導等を実践できる。	ICTや情報・教育データを活用した工夫ある授業及び児童生徒指導等を実践できる。	ICTや情報・教育データの活用	ICTや情報・教育データを活用した教育の実践	ICT及び情報・教育データの活用に関する目的的理解や、知識・技術を獲得している。	ICTや情報・教育データを活用した授業及び児童生徒指導等を実践できる。	ICTや情報・教育データを活用した工夫ある授業及び児童生徒指導等を実践できる。	ICTや情報・教育データを活用した授業及び児童生徒指導等について、同僚に指導助言ができる。

《キャリアステージ》 発展期／充実深化・円熟期

《本研修の目標》
ICTや情報・教育データを利活用した工夫ある授業及び児童生徒指導等について、同僚に指導助言できる

1人1台端末の利活用状況について

別紙1

令和4年度全国学力・学習状況調査結果をもとに文部科学省作成

- ◆ **1人1台端末を授業で活用している学校の割合** 2
 - － 小学校・都道府県別 2 / 中学校・都道府県別 3 / 小学校・指定都市別 4 / 中学校・指定都市別 5
- ◆ **自分で調べる場面でICT機器を使用している学校の割合** 6
 - － 小学校・都道府県別 6 / 中学校・都道府県別 7 / 小学校・指定都市別 8 / 中学校・指定都市別 9
- ◇ **教職員と児童生徒がやりとりする場面でICT機器を使用している学校の割合** 10
 - － 小学校・都道府県別 10 / 中学校・都道府県別 11 / 小学校・指定都市別 12 / 中学校・指定都市別 13
- ◆ **自分の考えをまとめ、発表・表現する場面でICT機器を使用している学校の割合** ... 14
 - － 小学校・都道府県別 14 / 中学校・都道府県別 15 / 小学校・指定都市別 16 / 中学校・指定都市別 17
- ◆ **児童生徒同士がやりとりする場面でICT機器を使用している学校の割合** 18
 - － 小学校・都道府県別 18 / 中学校・都道府県別 19 / 小学校・指定都市別 20 / 中学校・指定都市別 21
- ◆ **1人1台端末を家庭で利用できるようにしている学校の割合** 22
 - － 小学校・都道府県別 22 / 中学校・都道府県別 23 / 小学校・指定都市別 24 / 中学校・指定都市別 25

授業一般

調べる場面

教職員・児童生徒

発表・表現

児童生徒同士

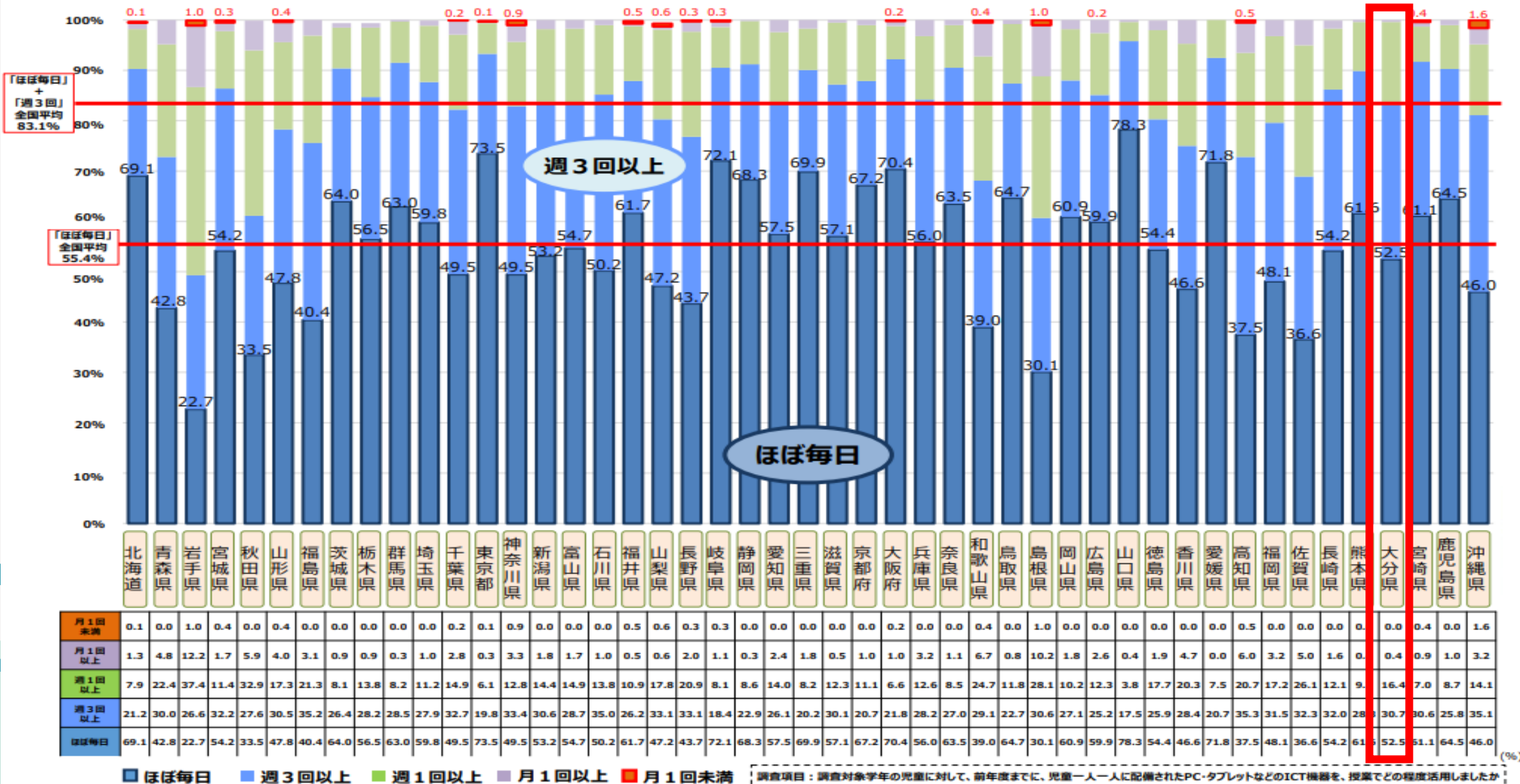
持ち帰り

文部科学省
HPより



1人1台端末を授業で活用している学校の割合（小学校・都道府県別 ※政令市除く）

※現在の小学校6年生が令和3年度までに受けた授業での活用割合について調査 (R4全国学力・学習状況調査結果より[令和4年4月実施])

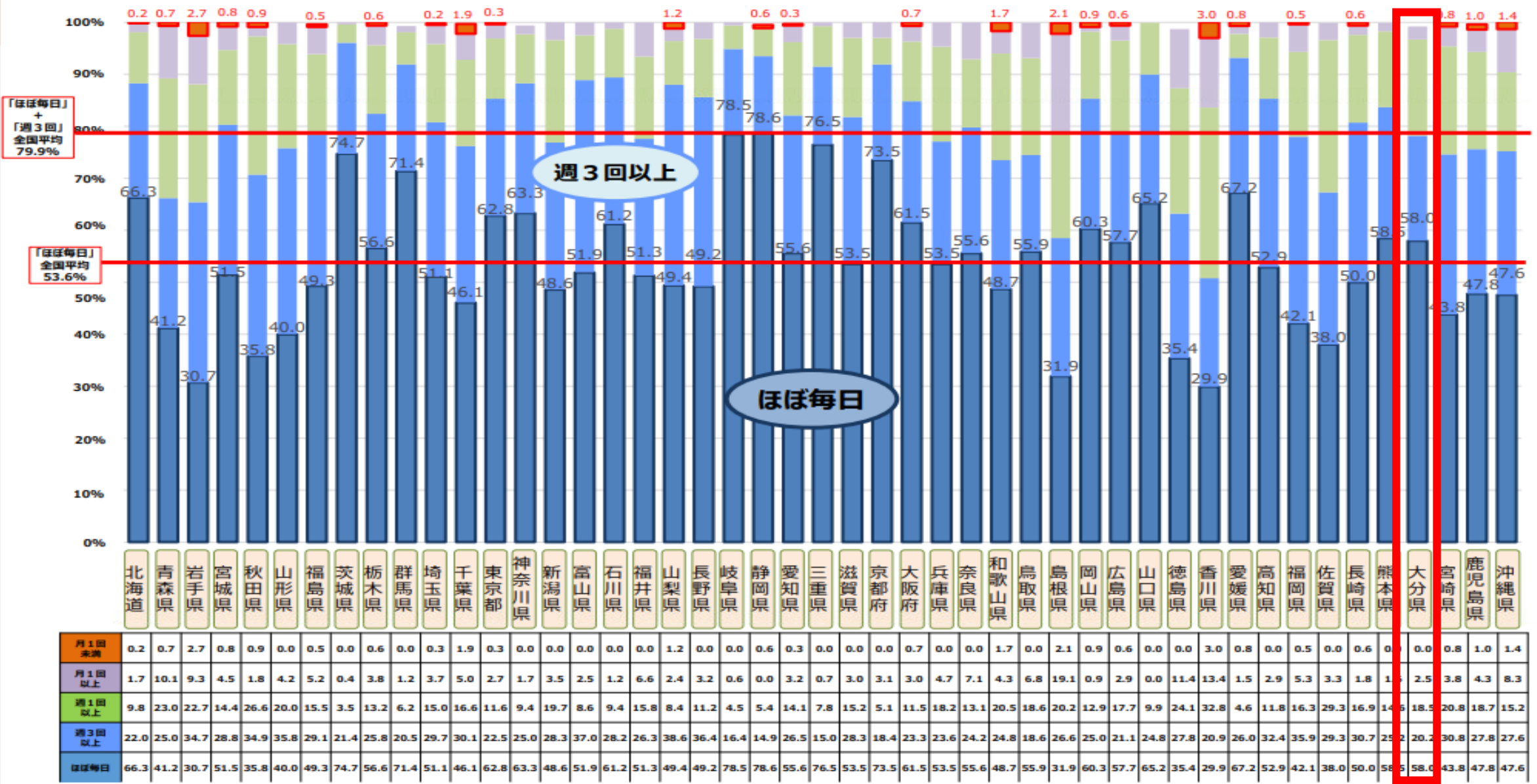


授業一般
調べる場面
教職員・生徒
発表・表現
児童生徒同士
持ち帰り

調査項目：調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

1人1台端末を授業で活用している学校の割合（中学校・都道府県別 ※政令市除く）

※現在の中学校3年生が令和3年度までに受けた授業での活用割合について調査 (R4全国学力・学習状況調査結果より[令和4年4月実施])



授業一般

調べる場面

教職員・生徒

発表・表現

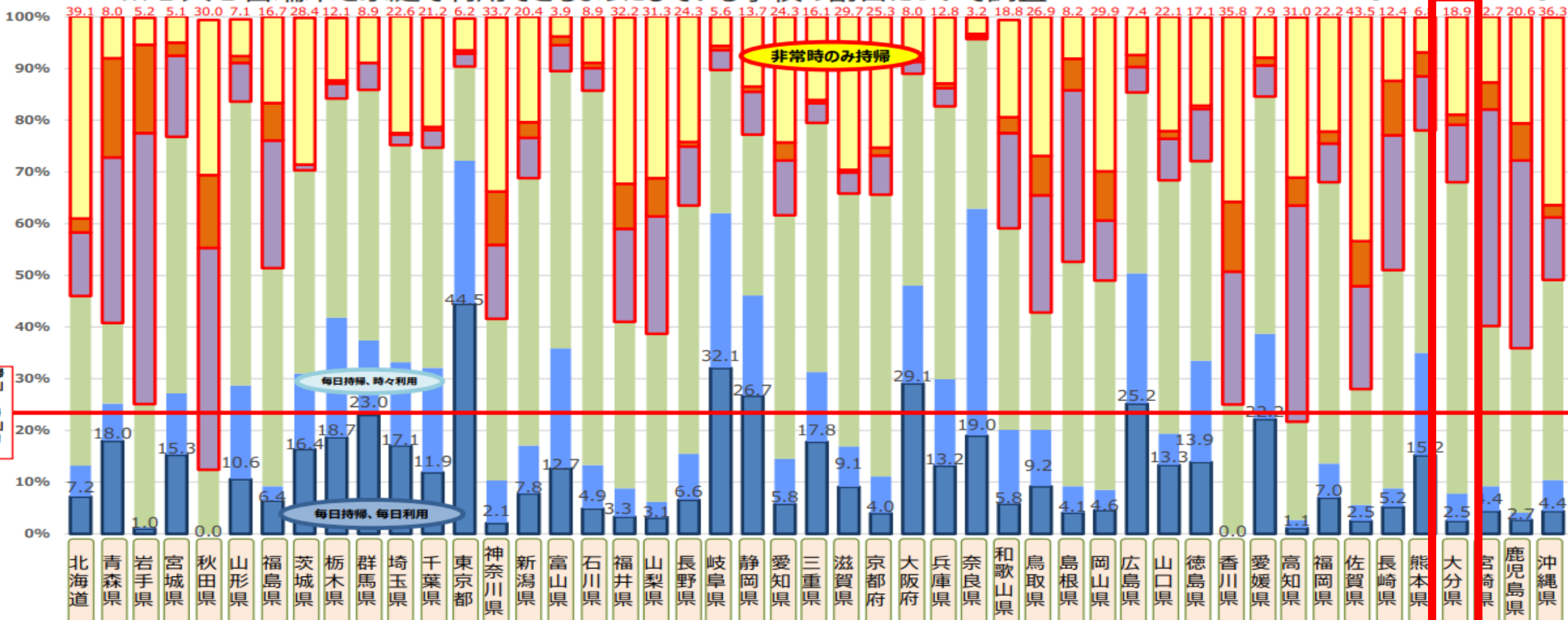
児童生徒同士

持ち帰り

調査項目：調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

1人1台端末を家庭で利用できるようにしている学校の割合（小学校・都道府県別 ※政令市除く）

※ 1人1台端末を家庭で利用できるようにしている学校の割合について調査（R4全国学力・学習状況調査結果より[令和4年4月実施]）



都道府県	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
非常時のみ持帰	39.1	8.0	5.2	5.1	30.0	7.1	16.7	28.4	12.1	8.9	22.6	21.2	6.2	33.7	20.4	3.9	8.9	32.2	31.3	24.3	5.6	13.7	24.3	16.1	29.7	25.3	8.0	12.8	3.2	18.8	26.9	8.2	29.9	7.4	22.1	17.1	35.8	7.9	31.0	22.2	43.5	12.4	6.4	18.9	2.7	20.6	36.3
持ち帰ってはいけない	2.7	19.2	17.1	2.5	14.1	1.3	7.2	0.0	0.6	0.0	0.3	0.6	0.6	10.3	3.0	1.7	1.0	8.7	7.4	0.9	0.8	1.0	3.5	0.6	0.5	1.5	0.7	0.9	0.5	3.1	7.6	6.1	9.5	2.3	1.5	5.4	2.3	8.7	10.5	4.0	2.0	5.2	7.2	2.4			
持ち帰らせていない	12.3	32.0	52.4	15.7	42.9	7.5	24.7	1.1	2.9	5.2	2.0	3.4	2.5	14.3	7.8	5.0	4.4	18.0	22.7	11.4	3.9	8.3	10.6	3.8	4.1	7.6	2.3	3.5	0.5	18.4	22.7	33.2	11.6	4.9	8.0	10.1	25.7	6.0	41.8	7.5	19.9	26.1	10.0	11.1	1.9	36.3	12.1
時々持ち帰って、時々利用	32.8	15.6	23.8	49.6	12.4	54.9	42.2	39.3	42.4	48.5	42.0	42.6	18.2	31.3	51.7	53.6	72.4	32.2	32.5	48.0	27.7	31.1	47.1	48.2	48.9	54.5	41.0	52.8	32.8	39.0	22.7	43.4	40.5	35.0	49.0	38.6	25.0	45.9	19.0	54.4	22.4	42.2	43.0	60.2	1.0	31.8	38.7
毎日持ち帰って、時々利用	6.0	7.2	0.3	11.9	0.0	18.1	2.8	14.6	23.1	14.4	16.1	20.2	27.7	8.2	9.3	23.2	8.4	5.5	3.1	8.9	29.9	19.4	8.7	13.5	7.8	7.1	18.9	16.7	43.9	14.3	10.9	5.1	3.9	25.2	6.1	19.6	0.0	16.5	1.6	6.6	3.1	3.6	19.0	5.3	4.8	1.4	6.0
毎日持ち帰って、毎日利用	7.2	18.0	1.0	15.3	0.0	10.6	6.4	16.4	18.7	23.0	17.1	11.9	44.5	2.1	7.8	12.7	4.9	3.3	3.1	6.6	32.1	26.7	5.8	17.8	9.1	4.0	29.1	13.2	19.0	5.8	9.2	4.1	4.6	25.2	13.3	13.9	0.0	22.2	1.1	7.0	2.5	5.2	15.2	2.5	4.4	2.7	4.4

- 毎日持ち帰って、毎日利用
- 毎日持ち帰って、時々利用
- 時々持ち帰って、時々利用
- 持ち帰らせていない
- 持ち帰ってはいけない
- 臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている

調査項目：あなたの学校では児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。

授業一般

調べる場面

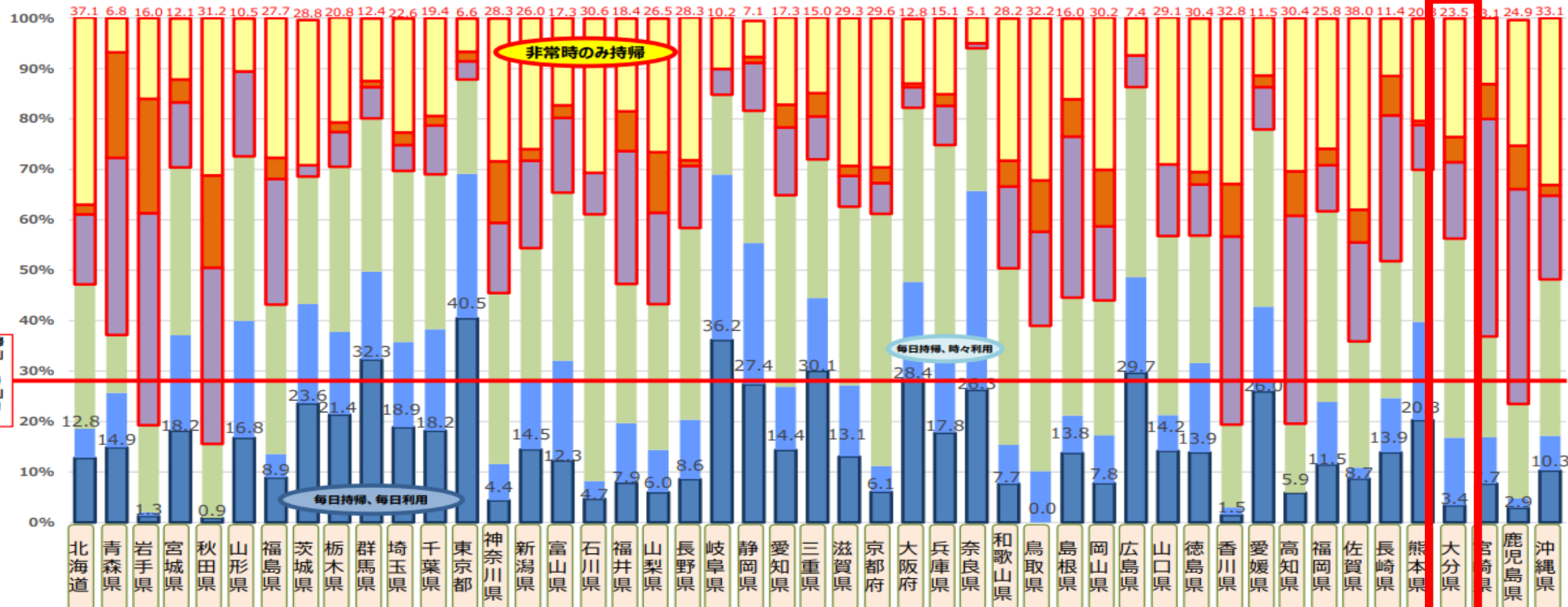
教職員・生徒

発表・表現

児童生徒同士

持ち帰り

※ 1人1台端末を家庭で利用できるようにしている学校の割合について調査（R4全国学力・学習状況調査結果より[令和4年4月実施]）



都道府県	北海道	青森県	岩手県	宮城県	秋田県	山形県	福島県	茨城県	栃木県	群馬県	埼玉県	千葉県	東京都	神奈川県	新潟県	富山県	石川県	福井県	山梨県	長野県	岐阜県	静岡県	愛知県	三重県	滋賀県	京都府	大阪府	兵庫県	奈良県	和歌山県	鳥取県	島根県	岡山県	広島県	山口県	徳島県	香川県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県	
非常時のみ持帰	37.1	6.8	16.0	12.1	31.2	10.5	27.7	28.8	20.8	12.4	22.6	19.4	6.6	28.3	26.0	17.3	30.6	18.4	26.5	28.3	10.2	7.1	17.3	15.0	29.3	29.6	12.8	15.1	5.1	28.2	32.2	21.6	16.0	30.2	7.4	29.1	30.4	32.8	11.5	30.4	25.8	38.0	11.4	20.8	23.5	3.1	24.9	33.1
持ち帰ってはいけない	1.9	20.9	22.7	4.5	18.3	0.0	4.2	0.0	1.9	1.2	2.5	1.9	1.9	12.2	2.3	2.5	0.0	7.9	12.0	1.1	0.0	1.2	4.5	4.6	2.0	3.1	0.7	2.3	0.0	5.1	10.2	7.4	11.2	0.0	0.0	2.5	10.4	2.3	8.8	3.3	6.5	7.8	0.0	5.0	3.9	8.6	2.1	
持ち帰らせていない	13.9	35.1	42.0	12.9	34.9	16.8	24.9	2.2	6.9	6.2	5.1	9.7	3.6	13.9	17.3	14.8	8.2	26.3	18.1	12.3	5.1	9.5	13.4	8.5	6.1	6.1	4.1	7.8	1.0	16.2	18.6	31.9	14.7	6.3	14.2	10.1	37.3	8.4	41.2	9.1	19.6	28.9	8.0	15.1	3.1	42.6	16.6	
時々持帰、時々利用	28.6	11.5	17.3	33.3	14.7	32.6	29.6	25.3	32.7	30.4	33.9	30.7	18.7	33.9	26.6	33.3	52.9	27.6	28.9	38.0	15.8	26.2	38.0	27.5	35.4	50.0	34.5	40.3	28.3	35.0	28.8	23.4	26.7	37.7	35.5	25.3	16.4	35.1	13.7	37.8	25.0	27.1	30.0	39.5	0.0	18.7	31.0	
毎日持帰、時々利用	5.8	10.8	0.7	18.9	0.0	23.2	4.7	19.7	16.4	17.4	16.9	20.1	28.6	7.2	13.3	19.8	3.5	11.8	8.4	11.8	32.8	28.0	12.5	14.4	14.1	5.1	19.3	16.7	39.4	7.7	10.2	7.4	9.5	18.9	7.1	17.7	1.5	16.8	0.0	12.4	2.2	10.8	19.6	13.4	0.2	1.9	6.9	
毎日持帰、毎日利用	12.8	14.9	1.3	18.2	0.9	16.8	8.9	23.6	21.4	32.3	18.9	18.2	40.5	4.4	14.5	12.3	4.7	7.9	6.0	8.6	36.2	27.4	14.4	30.1	13.1	6.1	28.4	17.8	26.3	7.7	0.0	13.8	7.8	29.7	14.2	13.9	1.5	26.0	5.9	11.5	8.7	13.9	20.8	3.4	0.7	2.9	10.3	

調査項目：あなたの学校では児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレット等の端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。

1人1台端末の活用状況について

別紙1

令和4年度全国学力・学習状況調査結果をもとに文部科学省作成

◆ 1人1台端末を授業で活用している学校の割合	2
- 小学校・都道府県別 2 / 中学校・都道府県別 3 / 小学校・指定都市別 4 / 中学校・指定都市別 5	
◆ 自分で調べる場面でICT機器を使用している学校の割合	6
- 小学校・都道府県別 6 / 中学校・都道府県別 7 / 小学校・指定都市別 8 / 中学校・指定都市別 9	
◇ 教職員と児童生徒がやりとりする場面でICT機器を使用している学校の割合	10
- 小学校・都道府県別 10 / 中学校・都道府県別 11 / 小学校・指定都市別 12 / 中学校・指定都市別 13	
◆ 自分の考えをまとめ、発表・表現する場面でICT機器を使用している学校の割合 ...	14
- 小学校・都道府県別 14 / 中学校・都道府県別 15 / 小学校・指定都市別 16 / 中学校・指定都市別 17	
◆ 児童生徒同士がやりとりする場面でICT機器を使用している学校の割合	18
- 小学校・都道府県別 18 / 中学校・都道府県別 19 / 小学校・指定都市別 20 / 中学校・指定都市別 21	
◆ 1人1台端末を家庭で利用できるようにしている学校の割合	22
- 小学校・都道府県別 22 / 中学校・都道府県別 23 / 小学校・指定都市別 24 / 中学校・指定都市別 25	

授業一般

調べる場面

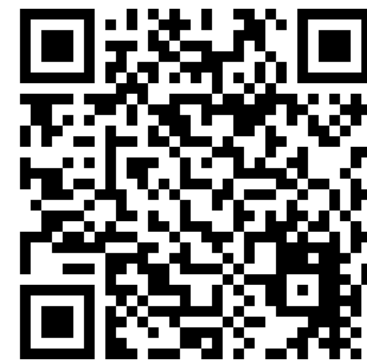
教職員・児童生徒

発表・表現

児童生徒同士

持ち帰り

文部科学省
HPより



1人1台端末の活用状況について

別紙1

令和4年度全国学力・学習状況調査結果をもとに文部科学省作成

- ◆ **1人1台端末を授業で活用している学校の割合** 2
 - － 小学校・都道府県別 2 / 中学校・都道府県別 3 / 小学校・指定都市別 4 / 中学校・指定都市別 5
- ◆ **自分で調べる場面でICT機器を使用している学校の割合** 6
 - － 小学校・都道府県別 6 / 中学校・都道府県別 7 / 小学校・指定都市別 8 / 中学校・指定都市別 9
- ◇ **教職員と児童生徒がやりとりする場面でICT機器を使用している学校の割合** 10
 - － 小学校・都道府県別 10 / 中学校・都道府県別 11 / 小学校・指定都市別 12 / 中学校・指定都市別 13
- ◆ **自分の考えをまとめ、発表・表現する場面でICT機器を使用している学校の割合** ... 14
 - － 小学校・都道府県別 14 / 中学校・都道府県別 15 / 小学校・指定都市別 16 / 中学校・指定都市別 17
- ◆ **児童生徒同士がやりとりする場面でICT機器を使用している学校の割合** 18
 - － 小学校・都道府県別 18 / 中学校・都道府県別 19 / 小学校・指定都市別 20 / 中学校・指定都市別 21
- ◆ **1人1台端末を家庭で利用できるようにしている学校の割合** 22
 - － 小学校・都道府県別 22 / 中学校・都道府県別 23 / 小学校・指定都市別 24 / 中学校・指定都市別 25

授業一般

調べる場面

教職員・児童生徒

発表・表現

児童生徒同士

持ち帰り

文部科学省
HPより



掲載例

学びを止めない！
これからの遠隔・オンライン教育
普段使いで質の高い学び・業務の効率化へ

令和2年度 遠隔教育システムの効果的な活用に関する実証

令和2年度から開始した、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を目的として、多くの学校で遠隔・オンライン教育が実施されました。この機会にも、遠隔・オンライン教育の活用を促進し、今後の学校・地域における遠隔・オンライン教育の普及を図ります。

このように、授業や研修等の実施に際して、遠隔・オンライン教育の活用が学習する機会を増やすことにつながります。また、学習の進捗や理解度を把握し、必要に応じて個別に学習支援を行うことも、遠隔・オンライン教育の活用によって実現することが期待されています。

文部科学省は、「新型コロナウイルス感染症対策のための遠隔・オンライン教育に関する調査報告書」(令和2年4月12日)の中で、遠隔・オンライン教育の活用を促進し、今後の学校・地域における遠隔・オンライン教育の普及を図ります。また、遠隔・オンライン教育の活用に関する調査報告書(令和2年4月12日)の中で、遠隔・オンライン教育の活用を促進し、今後の学校・地域における遠隔・オンライン教育の普及を図ります。

掲載例の活用事例は、令和2年度の実証事業に関するものです。

主な掲載内容

・学びを止めない遠隔・オンライン教育 具体的な取り組み

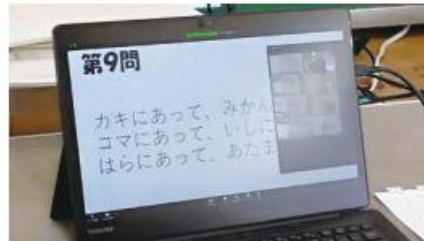
- ・Withコロナ・ポストコロナにおけるICT活用
- ・ICT機器やシステム等の環境整備・準備
- ・遠隔教員研修 など

新型コロナウイルス感染症による
臨時休業中の取組等を紹介

児童生徒とつながる・児童生徒同士がつながる

～オンラインでホームルーム・健康観察で会話する機会を確保～

・毎日決まった時間にWeb会議システム上に集まって教員や生徒がお互いの顔を見ながら話をしたり、健康観察を行いました。教員や児童生徒同士が顔をあわせて会話する機会は大きな安心につながり、生活リズムの安定にもつながります。



高森町立高森中学校では、Zoomを活用し毎朝20分間程度のオンライン健康観察を行いました。身近に時間の中で交流できるよう、体操やクイズを行う等の趣向を凝らした活動も行われました。

学びを止めない

～オンラインでの学習支援で児童生徒に寄り添う学習～

・Web会議システムを用いて、教員と各家庭をつないだ遠隔学習が行われました。時間割に従って実施したり、教わりたいことがある児童生徒だけが個別につないで学習支援を受けたりするなど、様々な形態で実施できます。



高森町立高森東学園義務教育学校では、Zoomを使ったオンライン学習を行いました。画面共有したりカメラで黒板を映したりしながら資料を提示し、通常の授業と同じように学習を進めました。児童生徒は分からないことがあればチャットで質問したり、学習後に自由接続の時間を設けて個別に指導するなどの対応も行われました。



誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策「COCOLOプラン」(概要)

※Comfortable, Customized and Optimized Locations of learning

○小・中・高の不登校が約30万人に急増。90日以上の不登校であるにもかかわらず、学校内外の専門機関等で相談・指導等を受けられていない小・中学生が4.6万人に。

⇒不登校により学びにアクセスできない子供たちをゼロにすることを目指し、

1. 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える

2. 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する

3. 学校の風土の「見える化」を通じて、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする

ことにより、誰一人取り残されない学びの保障を社会全体で実現するためのプランを、文部科学大臣の下、とりまとめ。

○今後、こども政策の司令塔であるこども家庭庁等とも連携しつつ、今すぐできる取組から、直ちに実行。また、文部科学大臣を本部長とする「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策推進本部」を、こども家庭庁の参画も得ながら、文部科学省に設置。進捗状況を管理しつつ取組を不断に改善。

主な取組

1. 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える

仮に不登校になったとしても、小・中・高等を通じて、学びたいと思った時に多様な学びにつながるができるよう、個々のニーズに応じた受け皿を整備。

○不登校特例校の設置促進(早期に全ての都道府県・指定都市に、将来的には分教室型も含め全国300校設置を目指し、設置事例や支援内容等を全国に提示。「不登校特例校」の名称について、関係者に意見を募り、より子供たちの目線に立ったものへ改称)。

○校内教育支援センター(スペシャルサポートルーム等)の設置促進(落ち着いた空間で学習・生活できる環境を学校内に設置)

○教育支援センターの機能強化(業務委託等を通して、NPOやフリースクール等との連携を強化。オンラインによる広域支援。メタバースの活用について、実践事例を踏まえ研究)

○高等学校等における柔軟で質の高い学びの保障(不登校の生徒も学びを続けて卒業することができるような学び方を可能に)

○多様な学びの場、居場所の確保(こども家庭庁とも連携。学校・教育委員会等とNPO・フリースクールの連携強化。夜間中学や、公民館・図書館等も活用。自宅等での学習を成績に反映)

実効性を高める取組

○エビデンスに基づきケースに応じた対応を可能にするための調査の実施(一人一人の児童生徒が不登校となった要因や、学びの状況等を分析・把握)

○学校における働き方改革の推進 ○文部科学大臣を本部長とする「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策推進本部」の設置

2. 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する

不登校になる前に、「チーム学校」による支援を実施するため1人1台端末を活用し、小さなSOSに早期に気付くことができるようにするとともに、不登校の保護者も支援。

○1人1台端末を活用し、心や体調の変化の早期発見を推進(健康観察にICT活用)

○「チーム学校」による早期支援(教師やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、養護教諭等が専門性を発揮して連携。こども家庭庁とも連携しつつ、福祉部局と教育委員会の連携を強化)

○一人で悩みを抱え込まないよう保護者を支援(相談窓口整備。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーが保護者を支援)

3. 学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にする

学校の風土と欠席日数には関連を示すデータあり。学校の風土を「見える化」して、関係者が共通認識を持って取り組めるようにし学校を安心して学べる場所に。

○学校の風土を「見える化」(風土等を把握するためのツールを整理し、全国へ提示)
○学校で過ごす時間の中で最も長い「授業」を改善(子供たちの特性に合った柔軟な学びを実現)

○いじめ等の問題行動に対する毅然とした対応の徹底

○児童生徒が主体的に参画した校則等の見直しの推進

○快適で温かみのある学校環境整備

○学校を、障害や国籍言語等の違いに関わらず、共生社会を学ぶ場に

文部科学省
HPより





Web会議システム zoom を 使ったオンライン授業



授業を受けた生徒の感想

- ・板書が見えない！
- ・プリントが手元にない！
- ・プロジェクターの内容が見えにくい！



Web会議システム

👉 zoom

ロイロノート 👉

対面授業＋オンライン授業
ハイブリッド型授業

The complex block features the Royoro School logo on the left, which includes the stylized Japanese characters "ロイロノート" in blue and red, with "SCHOOL" in white on a green bar below. To the right of the logo is a blue box containing the text "自ら考え、仲間と学ぶ" (Learn by thinking for yourself and with your peers), "圧倒的なシンプルさで" (With overwhelming simplicity), and "先生の授業アイデアを実現する授業支援アプリ" (A lesson support app that realizes teachers' lesson ideas). Below this text is an illustration of three people (two men and one woman) in business attire looking at and interacting with large tablets. The tablets display various icons like a play button, a checkmark, and a camera. The background of the illustration is blue with white geometric shapes and arrows.

自ら考え、仲間と学ぶ

圧倒的なシンプルさで
先生の授業アイデアを実現する
授業支援アプリ

予備機でzoomを使い、教室（黒板や教師）の映像を映す



生徒機でのイメージ

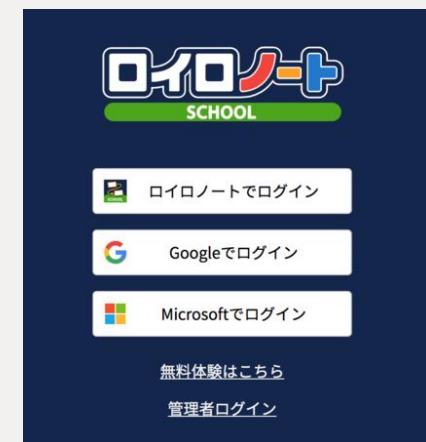
①zoomで教室の映像と音声聞こえる

②zoomで教室とつながったままロイロノートのアプリを開く

③この状態で、教師機で画面配信をすると…



④生徒機の画面では、ロイロノートの教師機の説明画面が表示され、スピーカーからは教室の音声聞こえて来る



オンライン授業が可能！

3 速さの問題

確かめよう



次の数量を、文字式で表しましょう。

- 時速 x km で 2 時間歩いたときに進む道のり
- x m の道のりを、分速 70 m で歩いたときにかかる時間

確かめ ▶ p.74 例2

$$\begin{aligned} (\text{道のり}) &= (\text{速さ}) \times (\text{時間}) \\ (\text{時間}) &= \frac{(\text{道のり})}{(\text{速さ})} \end{aligned}$$

めあて 方程式を使って、速さに関する問題を解いてみよう。

例1 何分後に追いつくかを考える問題

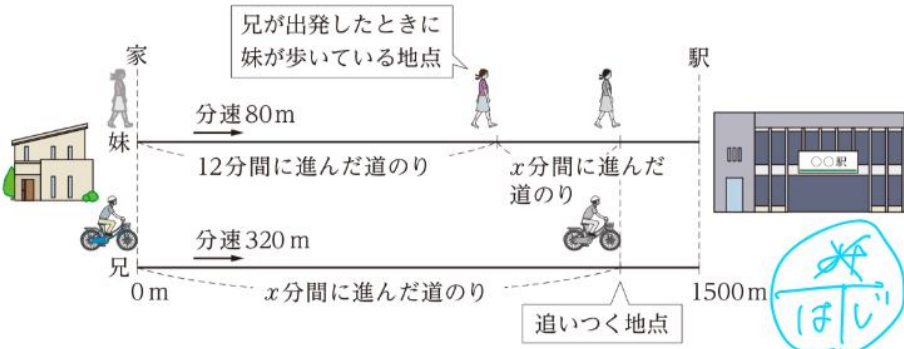


妹は、家から 1500m 離れた駅へ向かって歩き出しました。その 12分後 に、兄は自転車はなで妹を追いかけてきました。妹は 分速80m、兄は 分速320m で進んだとすると、兄が妹に追いつくのは、兄が出発してから何分後ですか。

$$80(x+12) = 320x$$

考え方

兄が出発してから x 分後に妹に追いつくとして、問題にふくまれる数量を、次のような図や表に整理して考えます。



	速さ (m/min)	時間 (分)	道のり (m)
妹	80	$x + 12$	$80(x + 12)$
兄	320	x	$320x$

◀ 分速 80 m を 80 m/min と表すことがあります。

教師機にタッチペンで文字を書き込むと、ややラグが生じますが生徒機に反映され、家や相談室で教室の授業を視聴可能にし、「**学びの保障**」を実現します！

1. 次の数量を、 \times や \div の記号を使わない文字式で表しなさい。(知識・技能 2点×6)

- 1個100円の品物を2個、1個150円の品物を3個買うときの代金の合計
 $100x + 150y$ (円)
- 2Lのジュースを6人で等しく分けるとき1人分の量
 $a \div 5 = a \times \frac{1}{5} = \frac{a}{5}$ (L)
- 1辺の長さが2cmの正方形の周の長さ
 $2 \times 4 = 4 \times 2$ (cm)
- a 人の80%の人数
 100 の80%は80人!
 $100 \times \frac{80}{100} = 80$
- 3ページの本文を、1日10ページずつ毎日読んでときの残りのページ数
 $x - 10y$ (ページ)
- 定価 a 円の商品を4割引で買ったときの代金
 100 の6割の値段!
 $100 \times \frac{60}{100} = 60$

2. 次の文字式を、 \times や \div の記号を使わない式で表しなさい。(知識・技能 2点×4)

- $c \times b \times 6 \times a = 6abc$
- $n \times (-1) \times m = -nm$
- $s \div t \div 3 = \frac{s}{t} \times \frac{1}{3} = \frac{s}{3t}$
- $y \times y - 2 \div x = y^2 - \frac{2}{x}$

3. 次の計算をしなさい。(知識・技能 2点×8)

- $(3a+2)(4a+9) = 12a^2 + 33a + 18$
- $(3a+2)(-3a+9) = -9a^2 + 27a + 18$
- $(7a-2)(-3a) = -21a^2 + 6a$
- $(-3) \times 4 \times x = -12x$
- $15x \div (-5) = -3x$
- $12a \div (-\frac{6}{7}) = -14a$
- $(5y-4) + (3y+9) = 8y+5$
- $(6a+9) - (4a+2) = 2a+7$

4. 次の式を、 \times や \div の記号を使った式で表しなさい。(知識・技能 2点×4)

- $5ab^2 = 5 \times a \times b \times b$
 $-\frac{3d}{c} = -3 \times d \div c$
 $\frac{s+t}{2} = (s+t) \div 2$
 $4xy^2 - \frac{5}{x} = 4 \times y \times y - 5 \div x$

5. 次の方程式を解きなさい。(知識・技能 2点×3)

- $x+7=12$
 $x=12-7$
 $x=5$
- $\frac{1}{2}x=2$
 $\frac{1}{2}x \times 2 = 2 \times 2$
 $x=4$
- $5x-9=6$
 $5x=6+9$
 $5x=15$
 $5x \div 5 = 15 \div 5$
 $x=3$

6. 次の数量の関係を等式または不等式で表しなさい。ただし、円周率は π とし、消費税は考えないものとする。(思考・判断・表現 2点×4)

- 2人の2割の人数は、 y 人より多い。
 $x \times \frac{2}{10} = \frac{1}{5}x$
 $\frac{1}{5}x < \frac{x}{2}$
- 兄の体重が m kg、弟の体重が n kg のとき、2人の体重の平均が 45 kg である。
 $\frac{m+n}{2} = 45$
 $m+n=90$
- 半径 r cm の円の円周の長さが 80 cm 未満である。
 $r \times 2 \times \pi = 2\pi r$
 $2\pi r < 80$
- 1本 a 円のペン b 本が 500 円で買える。
 $5a$
 $5a \leq 500$

1人1台端末の利活用状況について

別紙1

令和4年度全国学力・学習状況調査結果をもとに文部科学省作成

- ◆ **1人1台端末を授業で活用している学校の割合** 2
 - － 小学校・都道府県別 2 / 中学校・都道府県別 3 / 小学校・指定都市別 4 / 中学校・指定都市別 5
- ◆ **自分で調べる場面でICT機器を使用している学校の割合** 6
 - － 小学校・都道府県別 6 / 中学校・都道府県別 7 / 小学校・指定都市別 8 / 中学校・指定都市別 9
- ◇ **教職員と児童生徒がやりとりする場面でICT機器を使用している学校の割合** 10
 - － 小学校・都道府県別 10 / 中学校・都道府県別 11 / 小学校・指定都市別 12 / 中学校・指定都市別 13
- ◆ **自分の考えをまとめ、発表・表現する場面でICT機器を使用している学校の割合** ... 14
 - － 小学校・都道府県別 14 / 中学校・都道府県別 15 / 小学校・指定都市別 16 / 中学校・指定都市別 17
- ◆ **児童生徒同士がやりとりする場面でICT機器を使用している学校の割合** 18
 - － 小学校・都道府県別 18 / 中学校・都道府県別 19 / 小学校・指定都市別 20 / 中学校・指定都市別 21
- ◆ **1人1台端末を家庭で利用できるようにしている学校の割合** 22
 - － 小学校・都道府県別 22 / 中学校・都道府県別 23 / 小学校・指定都市別 24 / 中学校・指定都市別 25

授業一般

調べる場面

教職員・児童生徒

発表・表現

児童生徒同士

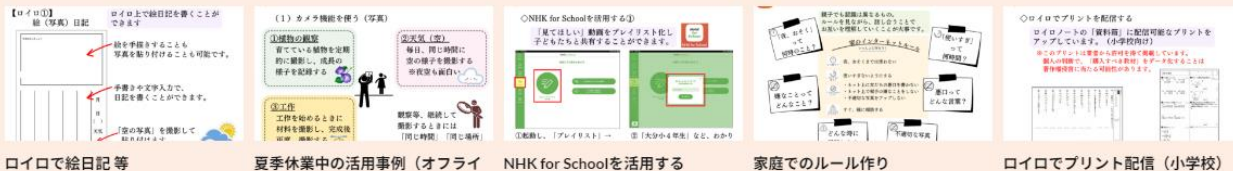
持ち帰り

文部科学省
HPより



大分市教育センター

ICT活用支援サイト ICT活用レター



ロイロで絵日記等 夏季休業中の活用事例（オフライン） NHK for Schoolを活用する 家庭でのルール作り ロイロでプリント配信（小学校）

【2023年度】ICT活用レター



大分市教育センター ICT活用レター 2023年度

ICT活用に関する様々な情報を発信しているレターをアップしています。
※本ページでは、2023年度に発行したものを紹介しています。

2022年度分の活用レターは、[こちら](#)
2021年度分の活用レターは、[こちら](#)

「レターをネット上で見る」を押すと拡大表示されます。
ダウンロードすることもできます。